

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	観音寺マーチングバンド「Humming Wind」		
所在地	〒769-1613 香川県観音寺市大野原町花稲 945-1	設立年	2021年4月
運営主体	観音寺マーチングバンド「Humming Wind」		
事業目標	これまで観音寺市立大野原小学校を核とした取り組みから、当団体が核となり地域で支える体制へと移行することにより、持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現の一歩となる。また、これまで小学校のみの活動であったものが、観音寺市内外の児童・生徒も参加できるようになり、将来はさらに年齢層が広がることで生涯にわたって取り組むことが可能となり、地域の文化として根付くことが期待できる。		
きっかけ	当団体の設立のきっかけは、母体である観音寺市立大野原小学校のマーチングバンド部のリーダー的な指導者の教員の退職の時期が近づき、その後の指導者の目処が不透明で、存続の危機であったことである。 大野原小学校のマーチングバンド部は、1986年から始まり、四国地区代表として全国大会出場を多く果たし、地域で魅力的な団体である。したがって、存続方法を考えるため、指導者の教員と現役部員・卒業児童の保護者として、2019年5月にサポート隊準備委員会を立ち上げ、運営・管理の受け入れ体制を整えた。そして、2021年4月に大野原小学校と部活動委託契約を締結した。		
団体・組織等の連携	大野原小学校の児童以外にも近郊の児童・生徒を受け入れられるよう、観音寺マーチングバンド「Humming Wind」を新たな団体として設立し、大野原小学校からは部活動の運営・管理を受託している。また、大野原中学校、及び豊浜中学校の生徒が所属しているので、両学校の校長先生との調整をしている。		
活動場所	観音寺市立大野原小学校体育館		
活動概要	年間事業計画に則り、部員たちは12月の全国大会出場を目指し、週5回の練習を基本に活動した。スポット的に外部専門家の講習会を昨年度以上の回数を開催、また、昨年度以上の複数の地域のイベントに出演をした。 また、従来からの課題である教員の部活動に対する対応時間の削減や財源の確保や少子化による部員減少について、事務局にて、大野原中学校や大野原小学校の校長先生、及び、観音寺市教育委員会、地域の企業やOBの方への相談や寄附依頼や部員募集を実施した。		

○本事業による成果

・事業計画書の目標の検証より;

1. 小学校教員の方の部活動業務軽減について、退職された教員の方達が当団体に所属されたので、学校側の業務は大幅に削減できた。また、中学生の部員を受け入れたが、中学校の先生方の業務はなし、校長先生との調整のみで対応した。しかし、当団体所属の指導者への賃金について、元々小学校の教員であったため財源がなく、本年は委託費から発生した指導料のうち50%を支払に充てることができたが、次年度以降財源が全くない課題が明らかになった。
2. マーチング専門指導者の育成のため、夏休みなど利用してOBの方などへ練習での指導補助をお願いできた。
3. 部員減少に対して、観音寺市内の小学校から1名入部の可能性の打診を受けたが、入部は現時点未定。来年度に向け観音寺市内外に部員募集のポスターとチラシの配布を実施した。
4. 各楽器等パートごとの専門家の講習会を、昨対1.5倍実施でき、部員達の技術とモチベーションの向上に繋がったと思われる。
5. Humming Wind所属員の遠征費用負担減少のため、全国大会旅費として23,870円×33人を本事業の委託費を充てた。
6. 従来、寄付金をフラッグや大道具の製作費に充てていたが、今年度は委託費を充てることで、演出の充実を図ることができ、また、サポート隊の寄付活動負担を軽減できた。

・部活動への保護者からの意見;

アンケート結果抜粋;部員74人中28人回収、2023年1月実施。「Q.マーチング活動を通してお子さんが成長されたと思うことをお書きください」への回答:

- マーチングだけでなくその他のことにも全力でがんばろうとするようになりました。人前に出て物怖じしなくなり度胸や自信ができました。いろんなことに挑戦しようと意欲的にもなりました。
- 自分に自信がついたのか以前と比べて積極性が身についたと思います。先輩を尊敬し慕う気持ち、後輩を庇い気にかける気持ちが育っていると思います。
- とても楽しんでます。練習で疲れていてもマーチングの話が尽きません。全国大会など貴重な経験をして自信にもつながっています。

・総括;

部活動の教育的意義として、学校から地域移行しても以下3点について維持できると考える。

1. 学校や家庭では経験できないマーチングバンド活動とそれに付随する団体活動を通じて、子ども達の重要な成長機会を提供できている。
2. 学校や家庭で居場所がない、または、目的意識が薄い子どもが一定割合毎年存在するので、その子ども達の受け皿としての役割を維持できている。
3. 地域移行することで、地域の方や保護者にはこれまで以上に参画していただく機会が増えるので、子ども達を中心とした地域活性化が見込める。

○児童・生徒への指導に関する工夫

各楽器等パートごとの専門家の講習会を、昨対1.5倍実施できた。具体的には13人の指導者の方達により、合計84回のスポットでの指導をいただけた。学校の教員では指導が難しい領域が多く、専門家の指導は欠かせない。具体的には、トランペット指導者、パーカッション指導者、トロンボーン指導者、ガード指導者、動きの指導者の講習会を実施し、教員やサポート隊指導者(定時の指導者)ではできない指導(幅広い基本や応用、また、実演して見せることで子ども達の吸収が高まる)をしていただいた。

また、従来は地域のイベントの出演について学校長の判断により出演できない案件もあったが、本団体として責任を持って新たなイベントへの出演の対応も可能となり、子ども達の練習・披露の場や部員募集の機会になり、さらに、地域活性の一助にもなった。

また、2021年度より小学生に加え中学生を受け入れ、練習と大会出場を合同で実施することにしたが、子どもたちの間で大きな問題は発生せず活動できている。ただ、小学生の最高学年の子ども達のリーダーシップ育成については新たな課題と考える。

○運営上の工夫

- ・用具(楽器等)調達、運搬、保管について;楽器運搬についてはバンドOBの保護者の方が4トントラックを出していただき、輸送費の実費のみお支払いしている。トラックの管理費はご厚意となっている状態である。保管に関しては、今年度は観音寺市に調整いただき、旧萩原小学校の1室を使用できている。通常の練習時に使用する楽器は、活動場所(大野原小学校)にこれまで通り保管している。
- ・活動場所が学校施設(大野原小学校)の場合;カギの開け閉めや施設の管理方法は、現在の練習時間開始は放課後およそ16時からであるため、従来より継続して大野原小学校の教員方に対応していただいている。今後、遠方の部員を募集する場合など18時以降の練習時間を計画する場合、調整が必要となると考える。
- ・資金調達方法、民間企業とのタイアップ等について;毎年全国大会前の秋に、地域の方、及び企業へ訪問し、寄附のお願いをサポート隊で実施している。
- ・指導者の養成・質の確保について;スポットで来て指導していただく方には、資格を持っている方や高校以上で音楽関係の部活動などの実績があることなど、質に関して内規を設定している。指導者の養成については、スポットでOBの方などに来てもらうよう働きかけて、マーチングバンドの指導者を目指すきっかけ作りを意識している。
- ・活動時間等の在り方等について;本団体の在り方について規約を制定しており、この中でバンド活動が教育活動及び地域の文化向上の一環、さらに、部員のマーチングバンドの演奏演技の技術向上を目的とする、としている。部員の学校生活や家庭生活において無理のない活動時間帯や時期を関係者と調整をして、年間活動計画を立案し、随時調整している。
- ・地域、保護者、教育機関等との連絡調整について;サポート隊事務局、教員、保護者役員とで分担して、部員の保護者や校長先生や観音寺市教育委員会と連絡調整(年間学校行事とバンドのコンテストやイベントなどの日程の調整と学校出欠扱いなど)をしている。
- ・コーディネーター・ファシリテーター等の役割を担う人材育成は図れているか;地元の楽器取扱店の仲介で、指導者の手配や楽器メンテナンスを有償にて対応いただいている。保護者会やイベント時の窓口など、教員からサポート隊事務局へ順次業務を移管している。
- ・活動場所について;従来からの活動場所である大野原小学校の体育館を、校長先生及び教育委員会との調整の上、継続して使用可能な見通しである。
- ・活動支援・事業運営のためにICTを活用しているか;子ども達に大会や練習の様子を配信して練習に役立っている。また、部員募集や寄付金集めなど応援してもらえよう、SNSで活動内容を発信している。
- ・関係者全員にとって無理のない仕組みを構築しているか;教員の業務をサポート隊事務局へ順次移行している。一例として、練習時の教員方の人数を減らし、その代わり安全見守りとして年間シフトを組んで保護者が練習に立ち会っている。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・**楽器・ユニフォームについて**;全国大会金賞を目指し、中学生の部で出場をして2年目となる。課題として、中学生は肺活量もあるので中学生用の楽器が必要となり、また、古い楽器が増えていて楽器は高額であるので買い替えの財源が不足している。
- ・**バンド出演時や遠征時の楽器輸送費について**;部員OBの保護者の方の4トントラックをご厚意で楽器積み込仕様に荷台を改修していただき対応している。実費のみお支払いしているが、トラックの管理費はご厚意となっている状態である。
- ・**遠方の児童・生徒の部員のための移動手段**;地方のため移動には車が必要で、子どもの移動手段がないため部員募集が進まない。母体の大野原小学校の児童のみから部員を募集するのでは少子化のため近年部員減少傾向でした。しかし、昨年度より小学校の外部団体としてHumming Windを運営することで、観音寺市内の小学校・中学校から部員を受け入れることが可能となった。しかし、放課後市内から練習会場への移動手段がなく、家族が送迎していただける児童・生徒しか入部できない現状である。市運営の乗り合いバスなどの融通など協力をいただきたいが、市の運営も困難なようである。
- ・**資金調達について**;サポート隊を中心に毎年秋頃に寄附活動をしているが、訪問先も毎年になると心よく寄附という雰囲気は少なくなり、寄附金額も年々減少傾向である。企業にも訪問しているが、同様である。一方、官民の助成への申請実績(観音寺市の「市民活動団体」、ニッセイ財団の「児童・少年の健全育成助成」)はあるが、採択には至っていない。また、市の補助について、学校の部活動であれば市の補助金を受けられることができるが、外部団体の児童・生徒に対しては補助金がないため、部員負担金額が増えてしまっている。特に公共機関や入園料などに対して、学割は使用できるが学生団体割が使用できない(学校長の承認と教員の帯同が条件)ため、遠征費が高くなっている。
- ・**指導者の養成・質の確保について**;スポットでOBの方などに来てもらうよう働きかけて、マーチングバンドの指導者を目指すきっかけ作りを意識している。その成果については長期的になると思われ(就職、子育てがひと段落した後の方が可能性が高い。就職として指導者になってもらうには年収が確保できないため。)、5~10年後には深刻な課題となると想定している。一方、現在の定時の指導者は小学校の元教員の方で、本団体に所属し指導していただいている。教員時の部活動指導において指導料の発生はなく、本団体に所属して謝金の予算を組んでいなかったが、当事業に採択されたことをきっかけに予算計上した。当事業のない来年度は、部費を上げる方向で調整を始めた。しかし、部員減少に繋がる懸念がある。部費を上げる限度もあり、そのため一般的な音楽指導謝金の時給に比較し低く、財源の見通しもないため後継者のなり手が出てこないのではと考える。
- ・**教員の働き方改革の観点について**;教員の部活動対応をサポート隊へ移行することで、教員の部活動対応時間は確実に減る方向である。しかし、部員が所属する小学校、中学校ともにバンド担当の先生が全くないという状況はしばらくは難しいと考えている。その理由として、学校行事計画を踏まえ、行事が重なり部員の負担が高まらないよう/テスト期間中のバンド活動/出演会場へ他の子ども達よりも学校から早めの移動、といったような調整の窓口の教員が必要と思われる。また、外部団体の活動を校内の友人や先生方に知ってもらい、応援してもらいたいという子ども達の気持ちもあると思うので、それを橋渡しする教員が必要と思われる。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・**高額な楽器のメンテナンスや買い替えについて**;全国的には少子化で、部の縮小や活動休止の部が存在すると思うので、楽器の貸し借りのシステムがあると無駄がないのではと考える。県内の学校間では、先生方の調整で貸し借りの実績はある。企業や警察音楽隊など比較的ゆとりのある団体との貸し借りが可能だと、質のいい楽器を子どもたちも使用できるのでより好ましい。
- ・**遠方の児童・生徒の部員のための移動手段**;地方のため移動には車が必要で、子どもの移動手段がないため部員募集が進まない。観音寺市の乗合バスの調整をしてほしい。
- ・**当事業(地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業)について**、学校の関係者、卒業生やその保護者、及び、地域の方へ広く理解してもらい協力者を増やしていくことで、財源的・人的な負担をみんなで分担できるシステム作りができればと考える。具体的な施策についてはあまりイメージできないが、協力する側のメリットが必要で、例えば、ボランティアで参加した時間及び寄附に対して、「ふるさと納税」のように節税ができるなど。
- ・**本団体のように外部団体の活動に対して**、学校の部活動と同等の公的な補助がいただけるようなシステムにならないか。

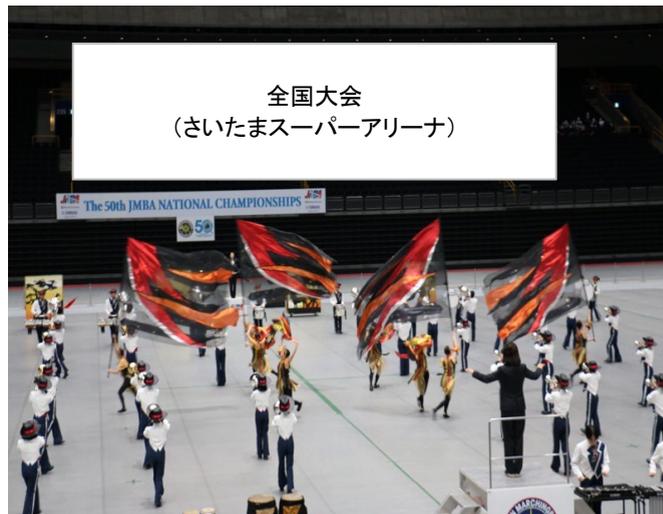
○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生48人、中学生26人
	学校名	大野原小学校、大野原中学校、豊浜中学校
	募集方法	年度替わりの時期に、学校内外のコンサートを実施して、部員募集を呼びかける。また、ポスターとチラシを观音寺市内外で近隣の学校へ配布した。
指導者	人数等	定時(ほぼ毎週決まった曜日に来ていただける)指導者3人(元小学校教員で退職された方)とスポットで来ていただいている指導者13人
	募集方法	定時での指導者は小学校の教員としてマーチングを指導していただいていた方達が、退職後本団体へ所属して指導いただいている。一方、スポットでの指導者は、マーチング協会から/观音寺市教育委員会から/定時の先生の人脈の中から来ていただいている。
参加者の移動手段		各自で、徒歩、または、自転車。
活動費用	指導者謝金等	定時指導者の方達へは精算報告書通り、時給1000円で年間分は財源がなく、半年分のお支払いのみした。
	その他	小学校の元教員の方なので、元々部活動指導の謝金はなかった。現在、本団体に所属し指導していただいているが、当事業以外には財源がないため謝金は支払えない状況である。来年度は部費を上げる方向で調整を始めた。
活動財源	会費	小学校の部活動に習い、部費として2000円/月を収集している。中学生は特別会計として追加で1000円/月を収集している。 また、直近25年連続で全国大会出場を果たしたが、全国大会(関東で開催)の遠征費が1人8万円程度毎年かかり、部員募集時の子どものバンドをやりたい気持ちに反して保護者の懸念になっている。特に兄弟で部員の家庭では、子ども達と保護者の遠征関連費は家庭において非常に負担となっている。
	その他	少子化のため1つの学校だけでは部員減少傾向は明らかであるので、市内外から部員の募集をしている。各学校1名からでも部活動相当の扱いをしていただければ、大会時の学校の出席扱いや補助金をいただけると、本会の継続的運営には大変助かるので、教育委員会の方と第1回の相談を開始したところである。
スケジュール	基本活動	学校の部活動での活動を踏襲している。普段は、平日週4日、放課度に練習している。週末は土曜日午前中に練習している。大会前は日曜に講習会など実施し、一日練習をしている。
	年間	年度初めに保護者会にて、年間活動を周知している。年度終わりには活動報告と会計報告をしている。 地域のイベント(祭りや音楽祭、イベントなどのセレモニー)に、5回出演した。 四国予選10月、全国大会12月に出場した。
保険加入等		年度初めに、部員全員がスポーツ安全保険に加入(保護者負担800円/年、指導者個人負担800円/年)。

【活動の様子（写真添付）】



四国予選直前練習
(くろしおアリーナ)



全国大会
(さいたまスーパーアリーナ)



練習(中学生と小学生)



講習会



練習見守り
(保護者とサポート隊)



サポート隊活動